



[トップ](#) [暮らしの情報](#) [文化・スポーツ](#) [生涯学習・社会教育](#)

ひので映画大使最新版

[2018年9月25日]

第97回映画大使「泣き虫しよったんの奇跡」

- ・ 期日 平成30年9月7日(金曜日) ※公開初日!
- ・ 場所 イオンシネマ日の出

作品紹介

棋士・瀬川晶司五段の自伝的小説「泣き虫しよったんの奇跡」を『青い春』の豊田利晃監督が映画化した人間ドラマ。豊田利晃監督も9歳から17歳までプロ棋士を目指す者が所属する研修機関奨励会に在籍しており、プロ棋士を目指していた。出演者は、主人公のしよったんを『散歩する侵略者』など多くの作品に出演し、日本を代表する俳優である松田龍平が担当した。松田と豊田監督のタッグは『青い春』など本作で4作目になる。その他の出演者も、野田洋次郎や松たか子、染谷将太、新井浩文、早乙女太一、妻夫木聡などそうそうたるメンバーが集結している。

棋士の世界の「26歳までに四段昇格」という規定へのプレッシャーに負け、奨励会の退会を余儀なくされた事への挫折や、将棋を愛する気持ち、仲間たちに支えられ再びプロ棋士を目指していく姿などを静かなながらも迫力のあるタッチで描き出す。



(C)2018「泣き虫しよったんの奇跡」製作委員会 (C)瀬川晶司／講談社

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

映画大使の「第一声！」

- ★ 凄く良い作品でした！
- ★ みんなが観た方がよい作品だなと思いましたね！
- ★ 家族がみんな優しく、言葉は強いときもあるけれど家族想いで、感動できましたね！
- ★ 将棋を打つ音がいいなと思いましたね！
- ★ 凄く面白かったです！



今回参加された、映画大使の皆さんです！

映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

私は将棋が好きで、子どもの頃からよくやっておりました。私がやっていた頃は、あんなに良い将棋盤でなかったのが、この作品を観ていて音がいいなと思いましたね。あんなに良い音は出す事ができませんでしたので、うらやましかったです。松田龍平さんも将棋の駒の打ち方をかなり練習したのだらうなと思いましたね。私も昔、練習しましたが、なかなか良い音は出ませんでしたので、わかります。

このお話は実話ですが、私はこの話がニュースでながれている頃の事を知りませんでした。

一つの夢に向かってがんばっていくと、応援してくれる人がいるのだという事を凄く感じましたね。がんばる事によってルールも変える事ができるものなのだとも思いました。

私は松田優作さんのファンでしたので、息子が成長している姿を見る事ができてうれしいなと思いましたね。優作さんも生きていたら、龍平さんの活躍を見て、喜んだのだらうと思いつつ観ていました。

Bさん

私は、あまり将棋になじみが無いのですが、駒を打つ時の指が凄く綺麗で、音も綺麗であると思いました。松田龍平さんは、この作品に出演されるにあたり、プロ棋士の方に駒の持ち方や打ち方などを教えていただいた事をテレビで観ましたので、その事も凄く興味をもって観ていましたね。

昔、テレビで中原名人の時代に鈴木英春さんという日本のアマチュア将棋差しの方がいまして、その方のドキュメンタリーを放映しておりました。鈴木さんも、この作品の主人公瀬川晶司さんのように奨励会にいてなかなかプロになれず、挫折されたようでした。その頃は32歳までに4段に上がらないとプロ棋士にはなれなかったようですが、この作品の時代では26歳でした。その番組を観ていまして、鈴木さんが現在どのような生活をされているのか興味を持ちまして、インターネットで調べましたら、将棋に関わる仕事をされていらっしゃるようでした。

本来はプロ同士でないで将棋が出来ないところを中原名人の好意でアマチュアの鈴木さんと将棋を差した事もドキュメンタリー番組でやっていたので、この作品とダブリましたね。

瀬川さんは、プロになれましたが、プロになれない方はどうなるのかなと考えながら観ていました。

凄く良い作品でした。

Cさん

私は将棋の事をまるで知らずにこの作品を観ました。

出演者は、いろいろな俳優さんが出演されていて、有名な方もただの通りすがりの人役で出演されていたりしましたね。

瀬川さんの家族がみんな優しく、言葉は強いときもあるけれど家族想いで、感動できました。

Dさん

いい作品だと思います。

Eさん

松たか子さんが凄く綺麗だなと思いましたね。目が輝いていまして、ほれぼれしてましたし、印象に残っています。この先生に出会った事が瀬川さんにとって開花していく要因にもなっているのだらうなと思いましたね。

何があっても希望を持ち続けるという事が凄いなと思いましたね。挫折しそうになっても好きな事から離れられない、それに向かって進んでいくたくましさを感じました。

松田龍平さんを主人公に選んだ事は、本当に良い配役をしたなと思いましたね。カッコいい・たくましいというよりも、なんとなくひ弱で助けてあげたいなという感じでして、それが凄く良いと思いました。

この作品を観まして、希望と勇気を教えていただきました。

今、耳に残っているのは、将棋をうつ「ぴし！・ぴし！」という音です。その音がとても印象的であった事と、将棋を打っている時の緊迫感でドキドキしていました。将棋はカッコいいのだなと思いましたね。そのようにみせる撮影の仕方も見事だなと思いました。自分が一緒に参加しているような感情も受けました。

この作品は、みんなが観た方が良い作品だと思いましたね。

Fさん

瀬川さんは、小学校の先生や家族、友達、将棋会館の方など凄くいい人に恵まれているなと感じました。周りの人が道筋を作ってくれたり、励ましてくれたりと、周りにいい人がいて良かったなと思いましたね。

将棋のプロになるのに26歳までに4段にならないといけないルールがあった事を知りまして、どれだけの人が涙をのんで、人生をいろいろな道に進んだのかなと思うと、考えさせられました。

瀬川さんは25歳の誕生日をどのような気持ちで迎えたのかなと考えましたね。奨励会を退会したあとに、友達と将棋を差して、瀬川さんが言ったセリフはいい言葉でした。

この作品を観て、瀬川さんは凄い事をされた方なのだと感じましたね。

いい作品だったと思いました。

Gさん

昔、将棋会館の前を通った事がありまして、「ここが将棋会館なのだ」と思った事がありました。

アマチュアの方はプロ棋士に弟子入りをしないといけないのですが、将棋のプロ棋士になるのはとても厳しかったので、弟子入りをする条件を「プロになれない時に困らない家である事」としていたプロ棋士がいたと聞いた事があります。

この作品を観ていまして、こんなに周りに恵まれた人がいるのだと思うほどでした。

瀬川さんがこの後7段や8段になってくれる事を望みますね。

この作品では、瀬川さんの気持ちの状況により部屋の状況が変わっていましたが、それが事実を元にした事なのか、監督が考えた演出なのか気になりながら観ていました。

Hさん

私も将棋の知識が無いなかで、この作品を観たのですが、将棋界の古い体質を感じましたし、勝てば栄光をつかめますが、負ければ夢も希望も無くなってしまふ世界でしたね。さらに、瀬川さんは、理解者を無くしてしまい、絶望しか残っていないのではないかと感じました。これからどうなるのだろうと思っていましたが、先生や親友など、いろいろな方が登場してくる中で、自分としての人生を歩みながらも、好きな事をやり続けていたので、素敵だなと思いましたね。

最後の局面の時に、親友からの励ましの言葉や、友人が日常の中で話していた言葉などを含め、1コマコマにみんなの想いなどが込められていて、その人の人生をのせたコマの進め方に凄く集中力を感じて、素晴らしいなと思いましたし、感動しました。そして、その対局の終わり方もカッコいいなと思いましたね。

最後のシーンに小学生の頃に親友と話していた事を思い出させるシーンを入れている事や、好きな事をやり続ける事の大切さなどが描かれていて、凄くいい作品だったなと思いました。

Iさん

凄く面白かったです。

私は、将棋は簡単なルールしか知らないのですが、アニメの「三月のライオン」が好きで観ていましたので、将棋を題材にした作品になじみがありました。そのアニメでも小さい頃から将棋をしていましたね。藤井聡太さんのブームがありまして、藤井さんの将棋の世界を聞く事がありますが、この作品と藤井さんの事はリアルに同じような年齢で同じ世界の話でしたね。

将棋を差す方の人生に興味がありましたので、この作品は観たかったです。

私は、瀬川さんがアマチュアからプロになる話を、ニュースで観ていまして、知っていたのですが、その時初めて将棋のプロになるのに年齢制限がある事を知りました。それも26歳という若い時に夢をあきらめないといけない事を知りまして、おかしいのではないかと思いましたし、衝撃を受けた記憶がありますね。

瀬川さんが、プロになっていく過程に凄く興味がありまして、真剣に観ていましたね。

他の方も話されていましたが、将棋の駒を打つシーンが凄く迫力がありまして、面白いなと思いました。

松たか子さんのような良い先生に出会えると後々の人生まで、ずっと心の中で励まされ続けるのだなと思ひまして、先生との出会いは大切だなと思いましたね。

作品の内容(印象に残ったシーンなど)

・この作品を観て、藤井聡太さんは凄いのだなと改めて思いました。プロになるのでさえ大変なのに、あの若さで7段になっているので。

・小林薫さんは演技が上手ですね！

・将棋の世界は才能の勝負で、強い方は若い頃から強い事が多いように思いますね！

・藤井聡太さんの影響で、最近将棋人気が復活しつつあって、プロを目指す方が前よりも増えてきているようですね！

・将棋とチェスなどとの大きな違いは、相手から取った駒を自分の駒として使う事ができる事と「歩」などの駒が「金」(強い駒)に変わる事ですね！

・将棋を差してみたくになりました！

・将棋の対局が終わる事を「詰む」というのですが、強い方同志の将棋はいつか先の動きを読むので、王将が取られる前に、終わるのですよね。加藤さんは100手先まで読めるとの事でしたね！

・将棋を差される方は、長時間正座して差されていましたが、凄いなと思いましたね！

・この作品を観て、言いたい事がある時には言っておいた方がいいな、と思いましたね！

まとめ

この作品については、将棋界という厳しい勝負の世界を描いており、日常生活とは少し離れた世界の話ではあるが、映画大使の方からは、いつもよりも多くて、さまざまな意見が出されました。そのようになった要因としては、観る方の状況に応じたそれぞれのメッセージや想い・行動が、心に届いたからだと感じました。また、厳しい世界の中に一石を投じた出来事を描いている事も観る人に感動を与えたのだと思います。更に、物語も実話でありながらドラマよりもドラマチックである事も要因になっており、いくも要因があるからだと思います。

将棋を差すシーンについては、プロ棋士を目指していた豊田監督だからこそ描く事ができた緊迫感と、観る人の心に残る音や映像を実現できたのだと思います。将棋を差すシーンだけでなく、エンドロールの表現やその他の演出についても、上手さと潔さ、そしてこだわりを強く感じました。

映画大使の方からの意見にもありましたが、まさしく「みんなが観た方がよい作品」だと思います。

映画は是非、劇場の大スクリーンでご覧ください！

映画大使では、年代も性別も違う方達が、それぞれ意見を出し合いひとつの映画について話し合うという、日ごろできない経験をする事が出来ます。映画を観て自分がこう思っただけではなく、年齢や経験などの違う人の目線で観たことを聞くことにより、違った発見があるので、ひとつの映画が何倍にも広がって行きます。

今後も「ひので映画大使」にご期待ください！！

関連ページ

- ・ [これまでのひので映画大使](#)
- ・ [ひので映画大使のトップに戻る](#)

ご意見をお聞かせください

このページは役に立ちましたか？

役に立った どちらともいえない 役に立たなかった

このページは見つけやすかったですか？

見つけやすかった どちらともいえない 見つけにくかった

送信

お問い合わせ

東京都 日の出町 文化スポーツ課 社会教育係
電話: 042-597-0511(内線541) ファクス: 042-597-6698

ひので映画大使最新版への別ルート

[トップ](#) [新着情報](#)